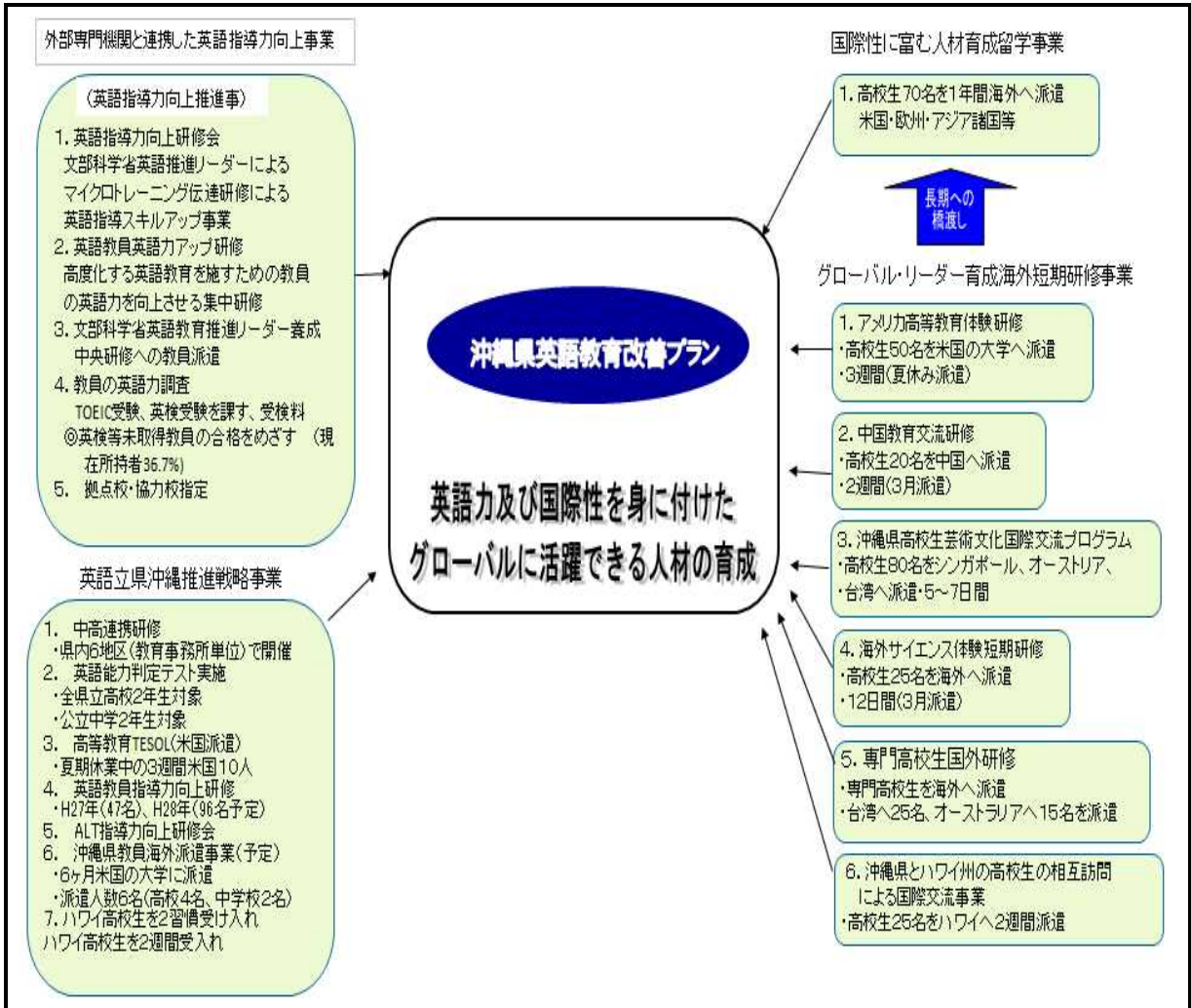


沖縄県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

【小学校】

- ① 相応の英語力を有する英語担当教員の割合 設定しない
- ② 小学校教員に対する研修実施回数 17回

【中学校】

中学校においては、「英語教育状況調査」を踏まえ H29 年度の目標値に近づけるよう、計画する。

- ① 求められる英語力を有する英語担当教員の割合
 目標値 50.0% 達成値 36.7% (H29 目標値 50.0%)
 H28 年度から実施している「英語教員英語力アップ研修会」にて、準一級などの資格をもたない教員をおもな対象に、集中講座を実施し、資格取得者増加をめざす。
 H29 年度から国の「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の委託を受けることにより、外部専門機関である TOEIC テストを課し、教員の資格取得率を高める。
- ② 求められる英語力を有する生徒の割合
 目標値 40.0% 達成値 30.1% (H29 目標値 40.0%)
 H28 年度から実施している「英語指導力向上研修会」で、小学校中核教員と中学校英語担当教員の指導力が向上することにより、言語活動の工夫で、生徒の英語使用量を増やし、英語で話すこと、書くことの表現力の向上を図る。

- ③ 学習到達度の整備状況
「CAN-DO リスト」形式での設定状況
目標値 98.0% 達成値 91.9% (昨年度 96.0%)
昨年の 96.0%から 4.1%減となった。すべての学校の設定・把握を促すとともに、公表の工夫をする。
- ④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合
目標値 70.0% 達成値 68.8% (H29 目標値 70.0%)
言語活動の中で、生徒の意欲を喚起する興味深い材料を仕込み、主体的に取り組める工夫をし、英語の使用量を増やす。
- ⑤ パフォーマンステストの実施状況
スピーキング 目標回数 3.0 回 達成回数 2.5 回
ライティング 目標回数 2.0 回 達成回数 1.4 回
パフォーマンステストの必要性和重要性が教員に理解され、適切な回数の実施となってきた。スピーキングにおいては、インターアクティブな対話
- ⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況
目標値 68.0% 達成値 72.6% (H29 目標値 73.0%)
英語で教えるということに、抵抗がなくなってきた。目標値 73.0%以上をめざす。
- ⑦ 英語担当教員に対する研修実施回数
目標回数 20 回 達成回数 20 回
現在は、
・教科ブロック研修 ・指導力向上研修 ・小中連携英語研修 ・中高連携研修
・各教科研修等が各 6 地区で実施されている。

【高等学校】 高等学校においては、目標値を設けているほとんどの項目を下回っている。特に、「学習到達目標の整備状況公表、達成状況の把握」、「生徒の授業における英語による言語活動時間の割合」、「英語担当教員の授業における英語使用状況」において、目標としている数値を大きく下回っている。更なる授業改善と評価方法の工夫が必要であり、次の方策を考えている。「求められる英語力を有する生徒の割合」に関しては、前年度と比較すると大幅増となっており、英語能力判定テスト (IBA) の受験者増による効果があったとみている。平成 29 年度は、全日制の全 2 年生を対象に実施する予定である。

- ① 求められる英語力を有する英語担当教員の割合
目標値 75.0%に対して 68.2%と下回っており、継続的に英語担当教員の英語力向上に繋がる研修会を開催し、目標値達成に向けて取り組んでいく。
- ② 求められる英語力を有する生徒の割合
目標値 40.0%に対して 38.4%と下回っているが、前年度と比較と「英検準 2 級以上を取得している割合 15.8%(+2.5 ポイント)、英検準 2 級以上相当の英語力を有すると思われる割合 22.6%(+12.0 ポイント)」となっており、向上が見られる。しかし、次年度の目標値 50%達成に向けて、引き続き各研修会において、CEFR の基準が計れるパフォーマンス評価を取り入れるよう求める。
- ③ 学習到達目標の整備状況
「CAN-DO リスト」の形式での設定状況は、H27 年度全高校からの提出があり 100%であった。しかし、公表に関しては 9.2%とかなり低いのが現状である。公表の意義の理解を進め、平成 29 年度には目標値に近づけるように努める。
- ④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合
現状は 40.1%であるが、中高連携研修会の公開授業等でモデルを示すことにより、平成 29 年度には目標値に近づけるように努める。
- ⑤ パフォーマンステストの実施状況
昨年度に比べると、スピーキングもライティングのテストも増加している。しかし、まだまだ目標値に届いていない科目があるので、パフォーマンス評価に特化した研修会を開催し、

意義、実施方法について意識を高める。

⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況

現状は45.0%であるが、夏季休業中に3日間の英語教員指導力向上研修を通して、平成29年度には60%を目指す。

⑦ 英語担当教員に対する研修実施回数

現状は、中高英語担当教員対象の合同研修会は「高校入試分析説明会（7地区）」「中高連携研修会（6地区）」「英語能力判定テストフィードバック説明会（3地区）」「教育講演会」「小中高大連携シンポジウム」の5つ、高校英語担当教員対象の研修会は「教育課程説明会（3地区）」「学習評価に関する研修会」「英語教員指導力向上研修会」の3つとなっている。ほとんどの研修が悉皆研修となっており、研修会では県の「英語教育改善プラン」を理解してもらい、各学校で生徒の英語力向上に繋がるような内容を目指す。

(3) 研修の体系と内容の具体

【小中学校の取組】

1 小中学校においては、H29年度より「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」（「英語指導力向上推進事業」）の中で次の5つの研修を実施する。

(1) 英語指導力向上研修会（小学校・中学校）

文部科学省英語教育推進リーダーによるマイクロトレーニング伝達研修により、英語担当教諭・英語教師の指導技術のスキル・アップを図る。

(2) 英語教員英語力アップ研修

高度化する英語教育を実践するために必要な教員の英語力の向上をめざした集中講座である。この研修において、準一級などの資格をもたない教員をおもな対象に、集中講座を実施し、資格取得率を高める。

(3) 文部科学省英語教育推進リーダー養成中央研修への派遣（県費）

(4) 教員の英語力調査（外部：TOEIC国際ビジネスコミュニケーション協会、日本英語検定協会など）TOEIC受験、英検受験を教員に課し、受験料をサポートする。

- ・求められる英語力を有する英語担当教員の増加をめざす（H28年度までの資格取得者36.7%）
- ・中学生に英検・GTEC等の受験をサポート（H28年度中学生英語力 30.1%）

(5) 拠点校・協力校指定

- ・小学校—英語推進リーダーによる実践的指導力の向上（英語教育強化加配1名）
- ・中学校—スピーキング能力の向上（パフォーマンス評価の工夫）

2 小学校の取組

○英語推進リーダーによる実践的英語指導力の向上

(1) 目的

○小学校外国語教育の教科化等に対応するための、英語教育推進リーダーによる校内、近隣校への指導技術等の波及

(2) 勤務校での役割

- 授業を参観・実践を通して段階的に指導・助言を行う。
- T1としての指導の在り方やALTとの関わりについて実践を通して提示する。
- 低・中・高において1単元の授業実践(専科・担任・ALTとのT.T.)を行う。
- 年間計画・授業の在り方・単元構成・教材などについて指導助言を行う。
- 校内研修の推進と中学校英語科教員等と連携した授業研究の推進を行う。

(3) 研修会・研究会での役割

- 県教育委員会が主催する「英語力・指導力向上研修」の講師
- 市町村教育委員会が主催する研修会・研究会の講師

(4) 派遣要請校での役割

- 授業参観後、授業についての指導・助言を行う。
- 教科化にむけての授業の在り方やカリキュラムマネジメントについて指導・助言を行う。
- 校内研修・中学校との連携推進についての指導・助言を行う。

(5) 公開授業

- 市町村の教員を対象にした授業公開（5月：単元づくりについて・Hi, Friends! Story Book）
- 県内の教員を対象にした授業公開（10月：教科化に向けて）

(6) 計画

【4月～8月】

- ・新学習指導要領・年計素案についての研修
- ・県や市町村教育委員会主催の研修講師
- ・指導力向上研修（5月）
- ・公開授業（5月：授業づくり・Hi, Friends! Story Book）

【9月～12月】

- ・派遣要請校における研修講師（中堅教員の授業公開と校内研修）
- ・公開授業（12月：教科化にむけて）

【1月・2月・3月】

- ・研究のまとめ

(7) 成果の検証

①教員の変容

○アンケートの実施

- ・めざす子どもの姿の設定に合わせた楽しい言語活動の工夫があるか。
- ・ALTと打ち合わせて授業を組み立てることができるか。
- ・TTの指導案を作成できるか。
- ・子どもに達成感を味合わせることができるか。
- ・英語の学習者の一人として、学ぶ姿勢で積極的に英語を使っているか。

②児童の変容

○アンケートの実施

- ・意欲の向上：英語活動の時間が楽しい。もっと話したい。
- ・コミュニケーション力の向上：自ら英語で相手に伝えようとしている。

○CAN-DO リスト

- ・「できることは何かな?」「できることを増やそう!」リストで自己評価する。

○ ①②を観察による見取りも行う

3 中学校の取組

- スピーキング能力の向上（パフォーマンス評価の工夫）

(1) 目的

スピーキングの評価における工夫をとおして、信頼性と妥当性のあるパフォーマンス評価のあり方について検証する。

(2) 研究内容

- 授業でプロダクション、インターアクティブなスピーキング活動を行う。
- 評価項目の検討をする。
- 評価者を工夫する。（ALT、生徒、他学年など）

(3) 成果の検証

- CAN-DO リストによる評価 ○生徒・教員・ALT アンケート調査
- 映像による授業分析
- 英検や TOEIC など、外部検定試験で、求められる英語力を有する英語担当教員の割合を、H28年度の達成値 36.7% から目標値 50.0%に近づける。

【高等学校の取組】

高等学校においては、本島・離島を含む全県立60校を対象とした研修会を、年3回実施を計画している。また、中高連携を深めるために、教育事務所単位（6地区）で研修会を次年度も計画している。さらに、パフォーマンス評価が重要視されている昨今の現状を踏まえ、県外大学より講師を招へいし、全県立60校対象の悉皆研修も予定している。

- ① 高校入試分析会を7地区に分け、全ての公立中学校、県立高校より英語担当教員1名が参加する研修会を実施し、3技能（読む、聴く、書く）の向上に繋がる高校入試のありかたについて協議し、各学校での授業改善に取り組む。
- ② 県立高校英語科教員対象の教育課程研修会を3地区に分け実施する。国の動向や、本県の生徒、教員の英語力の状況、留学事業等の行政説明後、グループ討議ではテーマを設定し各グループで話し合い、それぞれのグループでの協議内容を全体で発表しシェアし、授業力向上に努めている。

平成25年度より、カリフォルニア大学サンディエゴ校より當作靖彦氏を招聘し、学習評価に特化した講演会、レクチャー、ワークショップを開催している。参加者からも好評を得ており、平成29年度も、高等学校の外国語担当教員を対象とした研修会を計画中である。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校授業改善アドバイザー研修会（5教科） ・ 研究協力校推進委員会①（於：大山小） 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省英語教育推進リーダー養成中央研修会（中学校）① ・ 英語能力判定テスト（高校14,400名、中学校160名対象）実施 ・ 英語教育推進リーダー研修実習（小学校） ・ 中学校レディネス・テスト（真志喜中、近隣校）の実施 ・ 中学校教科ブロック研修会（5教科）5/24 ・ 協力校授業公開①（大山小学校）5/30 	英語検定協会
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省英語教育推進リーダー養成中央研修会（小学校）① ・ 高校入試分析研修会（全7地区）（中学校・高校） ・ ALTコーディネーター研修会 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語授業マイスター発掘プロジェクト（小・中・高） ・ 英語教育推進リーダー研修実習（中学校） ・ 教員英語力アップ研修（小学校・中学校） ・ 研究協力校推進委員会②（於：大山小） 	外部講師
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員英語力アップ研修（小学校・中学校） ・ 英語教育推進リーダー研修実習（小学校・中学校） ・ 英語教員指導力向上研修（小学校・中学校・高校） ・ 教育課程（外国語）研修会（全3地区）（高校） ・ 英語能力判定テストフィードバック説明会（中学校・高校） ・ 中学校授業改善アドバイザー研修会（5教科） 	琉球大学
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語担当中高連携研修会（6地区）（中学校・高校） ・ 学習評価に関する研修会（悉皆研修）（高校） 	沖縄国際大学 琉球大学・カリフォルニア大学
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省英語教育推進リーダー養成中央研修会（中学校）② ・ 中学校教科ブロック研修会 	

	・協力校授業公開②（大山小学校）10/25	
11月	・ALT等の指導力向上研修会 ・文部科学省英語教育推進リーダー養成中央研修会（小学校）②	
12月	・中学校ポスト・テスト（真志喜中、近隣校）の実施	
1月	・教育講演会 ・小中高大連携シンポジウム	県外大学
2月	・中学校教員 TOIEC テストの実施 ・研究協力校推進委員会③（於：大山小）	TOEIC 国際ビジネスコミュニケーション協会
3月	・研究協力校推進委員会④研究まとめ（於：大山小）	
【その他の取組】必要に応じ委員会を持ち連携して取り組む。（授業づくり、成果検証調整、まとめ、アンケート集計、報告書作成など）		

